

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	植樹・育樹ふれあい支援事業費（産業連携プロジェクト）					
担 当 課 係 名	農 林 課		林 務 係		作成者	田口幸栄
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	特色ある資源を活かした産業創造のまち				総合計画の ページ
	基本計画	森林の整備と林業の振興				
	主要施策	森林整備の意識高揚				66
予 算 費 目	一般 会計	6 款 農林水産業費	2 項 林業費	2 目 林業振興費		
事 業 期 間	平成 13 年度 ~ 平成 年度			新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☒ 内部管理					
根 拠 法 令 等						
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	市民並びに都市住民
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	森林ボランティアの協力を得ながら森林を整備し、合わせて地域住民とのふれあいを通じて都市と農村の交流を活性化させる。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	春と秋の年2回、森林作業体験交流会を実施する。内容としては、都市住民が地域住民とともに仙北市の造林地や雑木林を下刈・除伐・間伐・伐倒木を搬出するなど交流する。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	活動回数	目標	回	1	2	2	
			実績	回	1	2	2	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
	成果指標	延べ参加者数	目標	人	150	250	250	
			実績	人	150	242	261	
			達成度	%	100.0%	96.8%	104.4%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				1,420	1,955	2,142	
	人 件 費 (B)		—		785	807	793	
	職 員 数		—		0.10	0.10	0.10	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				2,205	2,762	2,935	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金				710	977	900
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				1,495	1,785	2,035
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		2,205,000	1,381,000	1,467,500	
	市民1人当たりのコスト(円)		—		69	88	95	

【事務事業の今までの成果】

平成12年10月に第1回を開催してから、平成20年9月まで17回の交流会を開催してきた。参加者は延べで、首都圏から906人、地元を合わせると2,340人にのぼっている。首都圏からの参加者の多くはリピーターで、地域の住民との物販交流などで関わりは活発になっている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	国はもとより、20年度から県事業でも、こうした森林交流に対する支援が創設されてきている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	受け入れる地域としては西木地区が主であるが、田沢湖の湖畔で開催するなど更なる広がりは可能と考えている。地域の住民も2度3度と開催しており、苦労はあるが楽しみでもあるようだ。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
A	A 現状のまま継続（実施）	農林業の新たな振興策として、非常に有効である。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

1回の交流会で都市部の参加者が80人位となってきたが、受け入れ態勢としてはこの位が適正と思われる。今後は、田沢地区の造林地や雑木林を会場に地元の交流会参加者の範囲を広げて行きたい。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	交流事業として定着してきており、市内の他産業の振興にも寄与する可能性を持っていることから、引き続き推進すべきと考えます。

一次評価診断図

